

第30回里山一斉調査報告

文 常俊容子(NOB) 里山委員会 野生シカ調査会



薬尾寺の堤防で(四條畷・田原の里山)



春の嵐の爪痕(池田・五月山)



第2名神道路工事中(高槻・原盆地)

春恒例の保全協会主催行事「里山一斉調査～観察しながらウォーキング」は今年30回、4月8日12コース、15日3コース実施し、両日とも天候に恵まれ(コース名は確認表参照)延べ178名(うち小学生以下22名)が参加しました。

今年は昨年よりさらに季節の歩みが遅く、サクラも〇〇も開花していない、草花も葉ばかり、という報告が並びます。

また昨冬～今春「鳥が少ない?」「木の実、草の実が年を越して残っている?」とよく耳にしますが、果実食の傾向が強い鳥類はその豊作不作が移動に影響し、例えば長居公園でシロハラは3月中旬まで果実が残っていた年はそもそも殆ど渡来し

なかったという報告があります。(和田岳さん・大阪市立自然史博物館)大阪までやって来なくてもしのげた、ということでしょうか。

お馴染みの生きものを確認し一安心するコースもあれば、今年も人為による負の影響が懸念される報告も。池田・五月山では小規模ながら墓地が増え、高槻・原盆地では第2名神工事進行中、大規模な自然の改変によりシカのエサ場が増え密度増につながるかも?すでに激害地とされる当地域でのナラ枯れをさらに誘発するかも?(市民によるナラ枯れ監視システムで一昨年1本、昨年89本確認され処理された箕面が北摂での最前線、京阪奈ルートでは枚方の尊延寺、穂谷地



ジムグリ(茨木丘陵・鉢伏山)



カスミサンショウウオ今年も沢山産卵してました(四條畷・田原の里山)



イノシシのラッセル(八尾・高安山)



田起こし(堺・鉢ヶ峰)



田園風景(枚方・穂谷)



ミヤマカタバミ (橋本・玉川峡)



つぎはぎ獣害防除柵(能勢)



カスミサンショウウオ卵塊(箕面・聖天山)

域から広がっています。) 四條畷・田原の里山では清滝生駒道路の4車線化工事が始まり、斜面の宅地化が進む八尾・高安山では道端の草花が減少、高速道路、広域農道、大規模宅地開発などが続く泉南・畦の谷では春の嵐の爪痕か、山腹の林床植生がそっくり流れ消失し景観が激変、一同驚くとともに不安を感じたとのこと。

人為の正の影響としては、堺・鉢ヶ峰でイノシシの捕獲が進み、一部で放棄田が復活し生態系の回復に期待、その一方で、枚方・穂谷、泉南・畦の谷では放棄田は増えています。

市街化の指標とし協会でながらく取り組むタンポポですが、泉南・

畦の谷では宅地開発より7年目にし、カンサイタンポポ優勢に転じ、いまやセイヨウタンポポを見つけると珍しくて歓声があがる一方で、草刈りと除草剤使用を繰り返す休耕田ではセイヨウタンポポ一色に。また道路工事で法面が外来イネ科牧草の吹きつけとコンクリートで処理された橋本・玉川峡では昨年来セイヨウタンポポ、ミチタネツケバナなどの帰化植物が侵入し、消失した植生は回復せずとのこと。

シカの現況と、一斉開花～枯死したササ類始め森林植生へのシカの影響確認が主目的の能勢町・天王では、ササの芽生えが散見されるものの、草本層～低木層の消えた林床では降雨毎に土が流され裸地

化が進んでいます。程度の差はあれ、北摂各地でシカによる植生への影響は年々顕著で、箕面・聖天山～オケ原ではその採食圧により一見して道幅が広がったとも。

平成18年より散発的にシカ情報がある河内長野・天見は今回確認されませんでした。大阪南部で隣接県より進入、出没情報あり、これを受けて大阪府シカ特定計画では従来の北摂4市3町から今年度より府全域が対象となっています。

特定外来生物では、相変わらず常連アライグマ、昨年その拡大が話題になったナルトサワギクは茨木丘陵・鉢伏山で彩都の造成地から周辺に拡大中です。

